



題字 出口 直日

通巻 第 5 6 1 号  
 発行 大本 東京本部  
 東京宣教センター  
 センター長 浅田秋彦  
 〒110-0008  
 東京都台東区池之端 2-1-44  
 TEL 03-3821-3701  
 FAX 03-3821-5283  
 振替 00160-5-72625  
 URL <http://oomoto-tokyo.com>  
 Mail [tokyohonbu@oomoto.or.jp](mailto:tokyohonbu@oomoto.or.jp)

今月の聖言

とつくに  
 外国の空は遠くも神の目に

見たまふ地上は一つなりけむ

出口王仁三郎聖師

世界連邦運動にご協力を！

東京宣教センター次長 猪子 恒

大本開祖大祭をはさんで、二つの「世界連邦大会」が開催されました。

一つは「大本」誌でも広告され、大本・人類愛善会が大勢参加した、世界連邦推進日本協議会主催の「世界連邦日本大会2015 in 綾部」。もう一つは、世界連邦日本宗教委員会が主催し、富士吉田市で開かれた「世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者山梨大会」です。

教主さまには、10月下旬からのイタリアご訪問、大本ローマ支部設立式典、第二バチカン会議五十周年国際集会、ローマ法王謁見、大祭、道院との世界平和祈願祭など、怒涛のような超過密スケジュールの中、両大会にご参加、式典ではご登壇にもなり、万緑叢中紅一点、さらなら「女神さまのご降臨」のようでした。

それぞれ特徴のある立派な大会で、「地の高天原」の綾部では、記念講演の講師・中沢新一明治大学教授が、未来に向け聖師さまの思想が重要だと述べました。他方、富士山の麓にある富士吉田市は晴天で、その眺望にも恵まれ、木の花咲耶姫命さまの懐にいだかれるような会場は、一層神秘的な雰囲気心洗われ、「高天原」の集会そのものでした。

この世界連邦運動について、昭和25年、二代教主さまは『かむながら世界連邦平和なるみよをつくらむ一人ひとり』とお詠みになり、その推進の先頭に立たれました。以降、大本・人類愛善会は、どの時代も全国各地でこの運動の大きなけん引力となってきました。そして10年前の平成17年8月2日には衆議院本会議で決議され、世界連邦は、日本の「国是」となりました。これは世界初で、この時大本では、教主さまのご教導により、杳島ごもり百年の世界平和祈願が全国一斉に行われました。このことは記憶に新しいところです。

翻って、現在の世界連邦運動は、それぞれの部門ともサポーターが少なく厳しい実情です。「高天原」に降り立った「女神」のような教主さまにお導きいただきながら、この世界連邦運動を、一層、推進したいと思つた次第です。皆さまの、さらなるご協力をお願い申し上げます。



五代教主作 灰釉茶盃銘「里の雪」  
 【奈良岡の家別院土十梅松館木の花桜釉】

なにが問題か 「脳死臓器移植」

「死刑」「尊厳死」

〈大本の生命倫理活動〉



大本教学研鑽所事務局主幹

さいとう ひろし  
齊藤 泰

「人群万類愛善」の心と「真の生命」

今日の「生命科学」は、遺伝子解析など、小宇宙といわれる人間の体の神秘を解明しつつあり、それに伴って、医療への応用が始まっています。「科学」は真実を知るための手段として必要なもので、しかし、その「科学」をどのように応用するかについては、人間の自由意志に任されているところがあります。言葉を変えれば、人間は、科学を善用することもできれば、悪用することもできるの

です。

生命科学の医療への応用がどこまで許されるのか、その基準を「生命倫理」といいますが、大本では、科学の悪用（暴走）に歯止めをかけるため、これまで「生命」に関わる多くの新しい問題（生命倫理問題）に対して見解を発表するともに、署名や街頭アピールなど社会的活動を積極的に展開しています。

とくに大本には、社会的活動を担う組織として、宗教や人種、国の違いを越えた「人類愛善会」という創立90年の外郭

たケースさえ報告されています。

王仁三郎聖師は、心臓と肺臓の機能が完全に停止したときに肉体に宿っていた靈魂が離脱するところを靈視し、その靈肉分離の瞬間を死であるとしていますが、人類は古くから、呼吸と脈が止まり、目の瞳孔が散大する、いわゆる三兆候をもって人の死として受け入れてきました。ところが、臓器移植が技術的に可能になってから、この三兆候とは別に、便宜的に「脳死」という基準が定められ（それも国ごとに基準の内容が違う）、ドナーとレシピエント、2つの生命を天秤

にかけて、一方の生命を助ける代わりに、もう一方の生命を奪うという殺人同様の野蛮な医療行為が行われるようになりました。こうした移植医療を推進する人たちには、ドナーの行為を「愛の行為」のように伝え、世論をミスリードしています。一人ひとりの命をかけたがえのないものとして尊重することが本来の医療です。患者に優劣をつけて一方の患者を犠牲にしてもう一方の患者を救うというようなことは、かつてありませんでした。その

悪しき前例となったのが「脳死・臓器移植」です。これは結果として、生命を軽んじるものであり、こうした医療行為が日常化することによって、時と場合に

団体があります。

人類愛善会の創立者は大本の教祖・出口王仁三郎聖師です。この会の名称にある「人類」とは「人群万類」のことであり、人類に限らず、広く動植物、鉱物までを含めた万物を指す言葉だと述べられています。また「愛善」とは、神さまの神格を表現する言葉であり、神さまの慈愛の心、至仁至愛の心そのものを指します。従って「人類愛善」とは、生きとし生けるすべてのものに神さまの心がゆきわたっているとも、あるいはゆきわたらせなければならぬとも理解でき、一般にいう「人類愛」をはるかに超えた広い意味であることがわかります。

そのため、大本では、地球温暖化や大気汚染など一般では環境問題と言われるものも、最終的には神さまの尊い靈性が宿る万物の「生命」を壊そうとする動きにつながるから、生命倫理問題の一環として捉えています。

さて、これまでの科学者や宗教者の多くは、同じ「生命」という対象を違った視点から見つめてきました。科学者は主に肉體（体）の視点から、宗教者は主に精神（靈）の視点からです。言葉の使い方、同じ「生命」という言葉であっても、その視点の違いから、科学者は「セ

す。しかし、このようなことは法律に定めなくても、医師と患者、家族との話し合いの中で、最も適切な方法がとられているのが現状です。それをなぜあえて法制しようとするのかというと、高齢者に関わる医療費が国の財政を圧迫していることから、その医療費を抑制することが背景の一つとしてあるからです。本来なら日本のような長寿社会は素晴らしいことであるはずなのに、こうした法律ができることにより、高齢者が生きにくい世の中になるでしょう。これは悲しいことです。死に方のことを言う前に、高齢者がだれからも尊ばれる社会、尊厳ある生を全うできる仕組みを作ることこそが重要なのではないのでしょうか。

「みろくの世」実現に向かって

今年8月7日に、大本・人類愛善会は広く国内外に対し、世界の恒久平和実現を願って、「人群万類愛善」「万教同根」の理念のもと、「平和アピール」を発表しました。

日本では現在、「環太平洋経済連携協定（TPP）」や「安保法制」、「集団的自衛権」、「原発再稼働」などの問題がとりざたされています。これらの問題に共通して言えることは、生命を軽んじる風

イメイ」と音読みし、宗教者は「いのち」と訓読みすることが多くなります。

しかし、このように精神（靈）と肉體（体）を切り離している限り、「真の生命」は見えてきません。大自然には、靈と体、陰と陽、プラスとマイナスのように、対極にある2つの要素があり、その両者が一致することによって「力」が生じるという法則があります。これを生命力といってもよいでしょう。このように大本では、「生命」を、靈にも体にも偏らず、靈・力・体の三元論で見る視点にこそ、生命倫理問題を解決する鍵があると主張しているのです。

「愛の行為」という美名のもと

生命倫理問題の中で、大本・人類愛善会がまず反対の声を上げたのは、脳死・臓器移植問題、脳死患者からの臓器抽出でした。

もとより「脳死」は人の死ではなく、脳死患者（ドナー）はまだ生きています。臓器移植の現場では、臓器抽出の際に見られるドナーの急激な血圧上昇を抑えるために薬が投与されており、またドナーの体が動き出さないよう筋肉弛緩剤も打たれています。さらに、ドナーが実は「脳死」でなかったケースや、意識が回復し

潮です。

戦後70年、人間同士が傷つけ合ったり殺しあつてはいけないという、その当然の倫理が改めて問われています。万物を造られた神さまは人類共通の親であり、よつてすべての人類は兄弟同胞であるという人類愛善思想は、人類愛善会が創立した90年前には理解されませんでした。21世紀の現代に至り、ようやく多くの人々が理解できる時代になりました。

原爆をはじめ悲惨な体験をした日本は、終戦後、2度と悲劇を繰り返すまいと決意し、世界に先駆けて「戦争放棄」を謳った平和憲法を制定して、戦いに明け暮れた人類の歴史に終止符を打つべく、新しいページを開きました。特に日本には永きにわたって育まれてきた「和の心、精神文化」があります。私たちが世界平和に貢献する道は、決して軍事的ではありません。日本国憲法の平和精神のもと、世界に蔓延する「われよし（利己主義）」「つよいものがち（弱肉強食）」の風潮を正し、「生命」の本質を訴える活動を通して、生きとし生けるすべてのものを尊ぶ「みろくの世」の実現に向かって、手を携えて歩ませていただくことが、今、極めて重要なのではないかと思います。

「死刑制度」も生命倫理問題

よつては人の生命を犠牲にしても良いといったような考え方を生み、人の心を与える悪影響は決して小さくありません。種類はやや違いますが、法律にもとづくとはいえず、人が人の命を奪うという意味では、「死刑制度」も生命倫理問題です。裁判は、人が人を裁くものですから、誤判（冤罪）は避けられません。もし誤判によつて無実の人が死刑に処せられることがあつては、取り返しがつかないでしょう。先進国の多くがすでに制度としての死刑を廃止しており、日本の死刑制度も廃止されねばなりません。

また、たとえ重大な罪を犯した人であっても、改心するように導くことが本来です。人を殺したから殺してしまふという復讐的想念は愛善の精神に反します。また、生きている間に、悪の心を善へと導かない限り、その靈的因縁が長く尾をひくことも懸念されます。

「生命」の法制化がもたらす危険

そのほか、「尊厳死」を法制化しようという動きがあります。これは、患者が自らの意思で「過度の延命治療」を中止することを法的に認めようとするもので

掲載文は、平成27年8月19日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

# 東光苑秋季大祭

東光苑秋季大祭・新穀感謝祭・七五三詣りは11月8日、午前10時30分から、齋主・出口文管大本楽天社代表のもと執行され、336人が参拝した。

祭員は関東教区各主会の祭務部長等、少年祭員は、神奈川主会の堀幹矢くん、田中あやのさん、東京主会の涌井三四郎くん、伶人は宮畔会関東支部、大本神論拝読は、大坂泰造東京主会長、添釜は高野社中が担当した。

祭典後、浅田秋彦本部長があいさつに立ち、夏以降、教主さまのモンゴル、ベトナム、イタリア訪問、ローマ支部設置にふれ、



齋主先達による感謝祈願詞奏上



宗教・信仰の力で世界平和を

「家庭内・地域社会など身近なところから宣教活動を実践することが大切」と述べ、「昨今の海外宣教によつて、横のつながり（ネットワーク）が構築され、アジアから世界平和が発信され、広がりがつある」と現状を報告した。

次いで、出口文管大本楽天社代表が『大本と白蓮』と題して記念講話



会場は清らかなときが流れた

を行い、大本と縁があり、世界連邦運動にも携わった柳原白蓮の生涯を紹介し、「歴代の教主・教主補さまが進めてきた世界連邦運動を私たちが続けていくことは、将来必ず力になる。損得の問題ではなく、戦争のない喜び勇んで暮らせる時代につながる」と述べ、「世界平和をもたらすのは政治ではなく、宗教・信仰の力であり、これは大本信徒の大きな役割の一つである」と結んだ。

その後、宮畔会関東支部による八雲琴『基本宣伝歌』『出雲の新嘗』が奉納され、『基本宣伝歌』は参拝者全員で斉唱した。

## 葬祭研修会

東光苑葬祭研修会は、11月14日午前10時30分から、東京宣教センターで開催され、29人が参加した。

開講式の後、「葬儀執行の流れ（喪家の心得）」「齋場調度品と神饌物について」の講義、および司会進行の仕方を実習し、「質疑応答」では、調度品や、みたままつりについてのなどの質問があり、研修を深めた。

## 大本公開講座

第153回大本公開講座は、11月18日午後7時から港区新橋の航空会館で開催され、

鈴木林太郎愛善宣教課主事が「明るく素直に前向きに①〜大本四大綱領」と題して講演した。参加者は41人（内、一般11人）。講座では、四大綱領「祭・教・慣・造」を解説し、「人間は世のため人のために、神さまにつかっていたり、与えられた天職を全うすることが大事である」と述べた。



自分の役割に自信を持つ

参加者からは、「まつりあわせが大切と知り、すべての調和・バランスを保ちたいと思いました（女性・一般）」等の声が寄せられた。

### 大本公開講座

開催日時 毎月第3水曜日 午後7時～8時30分  
場所 航空会館（港区新橋1丁目18-1）  
参加費 1,000円

### 大本常設講座

開催曜日 毎週、月・水・金曜日  
昼間の部 2時～3時30分  
夜間の部 7時～8時30分  
期間 平成28年1月13日（水）から12月21日（水）  
場所 東京宣教センター・8階ミーティングルーム  
参加費 無料  
内容 月曜日「神と人の関係」 水曜日「霊界の实在」  
金曜日「人生の目的」

※毎月第3水曜日の夜間の部は、公開講座のため休講します  
※夜の部におきましては、前日までの予約制となります

## 東光苑祭典・行事予定

### 平成27年12月

13日（日）午前10時30分執行  
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭  
全国人型おすめ活動日  
16日（水）午前10時30分執行  
開祖聖誕祭（179年）  
午後7時～8時30分

大本公開講座（航空会館・港区新橋）  
講題 明るく素直に前向きに②  
～大本四大主義～

20日（日）  
講師 小藪資史（特派宣伝使）  
全国人型おすめ活動日

25日（金）午前10時30分執行  
出口日出磨尊師毎年祭（24年）

### 平成28年1月

1日（祝・金）午前7時執行  
新年祭

1日～3日（金～日）各日午前9時30分から  
年賀

7日（木）午前10時30分

東光苑七草粥接待

10日（日）午前10時30分執行

東光苑月次祭・成人式典

19日（火）午前10時30分執行

聖師毎年祭（68年）

20日（水）午後7時～8時30分

大本公開講座（航空会館・港区新橋）  
講題 大本とは①  
～開教の意義～

講師 猪子 恒（東京宣教センター次長）



大本東京本部ホームページ  
URL <http://oomoto-tokyo.com>